

ふじぎごんぶん

第156号

2014年
5月号

おそらのくものふじぎ

くもは わたがし

ひざしが つよまり、 なつを
おもわせる ひも、 おおくなつて
きました。

きようは、 ぜっこうの えんそく
びよりです。 みいこちゃんたち
は おぼうしを かぶり、 かな
ぶやまに のぼりました。

ちようじようで、 おべんとう
を たべながら、 とおくの けし
きを ながめていると、 くもが
ゆったりと ながれていきます。

「くもって、 おもしろーい。」

あそこが おおねこの みみで
こっちは しっぽね。 くもって、
だれかが おそらの うえで、
おおきな わたがしを つくつ
て、 ちぎっているのかしら。」

えんそくに つきそっていら
した があきようじゆが お
しえてくださいました。



「くもは できる たかきで、 かた
ちが ちがいますよ。 それから、
くもには、 かたちによって きまっ
た なまえが ついているのです。」
「へーっ、 どんな なまえが ある
のですか？」

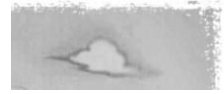
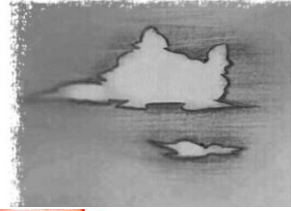
「たかい そらに できるのは、 す
じぐも、 すこし たかい ところ
は、 うろこぐも、 ひつじぐも、
ひくい ところでは、 うねぐもや
わたぐもですね。 それから、 あつ
い なつには、 むくむくと にゆう
どうぐもが できます。」

「かみなりが くる くもでしょ。」
「ええ、 そのとおり。 ほかに、 お
てんきが よくて、 うつすらと で
きる うすぐも、 あめのときに で
きる あまぐもが ありますね。」

「あれえ、 なまえを きいている
あいだに、 ねこの みみが なくな
っちゃったあ。」

かんたん？ いがい？ ためしてみよう！
きょうの おそらに どんな くもが ある？

そらを みあげて みよう。
きょうの くもは なにいろ？ どんな かたち？
ちいさく ぼっかり シュークリーム？
それとも、おおきな むくむくの パンかな？
それとも そらは くらく、
ぜんぶ くもに おおわれているかな？
だったら あめふり？ まだふっていない？
おひさまの あるところが わかる？
そらの くもは まいにち どんどん かわっていくよ。



クイズコーナー

1 そらの くもの なかまが
ちじょうにも あります。
どれかな？ 2つ あります。

- 1 たばこの けむり
- 2 きり
- 3 しろい しょくぱん
- 4 やかんの しろい ゆげ
- 5 わたがし

2 うちゅうからも
ちきゅうの
くもは みえるよ。
ほんと？ うそ？



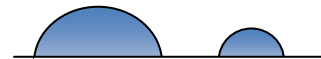
えんにちの きぶんが
あじわえる、

ふわふわやの
わたがしメーカー

ザラメをいれるだけで、
ほうら、わたがしが
でてくる、
でてくる。
おはしにとって、たべましょう。

みんなが みつけた ふしぎ

(みずたまりに きから しずくが
ぱらぱらと おちて あわがたった)
みずたまりに しゃぼんだま？
なんで はんぶんなの？



(Natsuha)

みんなも みつけた
ふしぎ おしえてね

どれも 雲

「あ、うさぎさん！」

私の傍らを過ぎた園児が、お母さんの手を引いて明るい声を立てました。私は思わず庭を見回し、それから園児の視線の先の空を見上げました。あ、なるほど！

白い耳をピンと立てた、ウサギそっくりの雲が、ちょうど山の向こうから育ち上がってきたところでした。

子供達に雲の名前を付けさせたらさぞかし面白いでしょう。現在の気象の分類などより遙かにユニークな仲間分けがなされるかもしれません。

雲は最も身近で不思議な物の一つですね。青空に、朝焼けや夕焼けの空に、ぼっかりと、あるいは刷毛で掃いたように浮かんでいて、その形はほとんど変化して流れていきます。

「子供のふしぎ」の報告を見てみると、少なからぬ幼児達が、白い綿菓子のような雲と、雨が降りそうな曇りの雲は、別物と知っているようです。それも当然かもしれません。同一視できるのは、大人の知識の眼を通してだからでしょう。とても素直な観察ですね。

ただ、夏の空や春先のゲリラ豪雨の時など、きれいな白い雲が、みるみる入道雲に育ち、黒雲が広がってきます。ドキドキするような変化は、公園にお散歩中だったりすると、大急ぎで家に帰ることになり、子供心にとっても印象的です。

また、絵本ではどちらかが雲として登場します。お日様と北風の物語や、雷様のお話な

ど、白雲も黒雲どちらもが自然に雲として取り扱われています。

そんな、日々の多くの体験の中で、子供達はいつしか、空に浮かぶのは白くとも灰色でも、形が違ってても、全部雲なんだと理解していくようです。

そして、灰色や黒い雲からは雨が降りやすいこと、雲が赤く染まるのは朝方や夕暮れであること、風が強いと雲が速く流れていくこと、飛行機の後ろに飛行機雲がのびることがあることなど、本当にたくさん雲に関する現象を発見し、どれも雲だと受け入れていくのです。

そういうえば、子供にとって納得しにくいことの一つに、自分いる場所の外観の把握があります。

例えばレストランで食事をしていたとして、そこが森の中の一軒家か、町中のビルの高階かは、私たち大人ならば窓からの景色やそこに至る道筋などから、当然理解しています。子供は違います。椅子とテーブルと、周りの大人と眼につく周りのものがすべての世界です。

同じことが飛行機に乗るときにも言えます。空港から見ていた飛行機に、通路を通して乗り込み座席に座ったときには、機体の内側にいるのだとわかります。

さつき見ていた飛行機の窓辺に座っている自分を想像できるのです。



子供が見つけた不思議・ミニ解説

先だって雨の日、私もこんな光景に出くわしました。木立の中の水たまりに、木の枝からばらばらと水滴が絶え間なく落ちてきて、水面に次々にきれいな泡ができては消えていきます。それはまさにシャボン玉のように薄く、光り、でも半球なのです。シャボン玉が二つくっくと8の字のようにならず、二つの間に平らな面ができることはご存知でしょう。これらは全体で安定する最小面積をとる為起こる現象です。水面にできる時のような、異なる面との接触では、半球が最もエネルギー的に安定しています。半分のシャボン玉は飛んでいるシャボン玉を手で受けた時などに見られますね。ところで、水面を見ていて落ちてくる水滴が必ず半球の泡を作るかということもありません。条件があったときだけ、ぱっと泡が生まれます。空の上でたくさんある水蒸気の、あるものだけが核を見つけて水滴になり、ほかのものはならない。この光景を思い描きました

新緑！！ HP 自由研究掲載

さあ、今年も何もかも一気に花開き、あつという間に緑が濃くなりました。虫達も飛び交い、鳥のさえずりも多く、私達も薄着になって足取りも軽くなります。どこに不思議が転がっているでしょう。親子で競争して見つけてみてはいかがでしょう。ふしぎ新聞は皆様がお寄せくださるふしぎでできています。お便りをお待ちしています。新聞はHPより無料でダウンロード可能です。紙面でお読みになりたい場合は年間(11回)の送料手数料1100円を定額小為替か小額切手で(3部まで同封可)下記の住所まで。13年度の小学生夏休み自由研究を掲載しました。ぜひご覧ください URL : science-with-mama.com

ところが、子供にはこれはとても難しい事です。以前「みんなのみつけたふしぎ」で紹介したように、「さあ、これからあの飛行機に乗りましょうね。」とあって、子供と機内に乗って席に着いた時、その子は「ねえ、はやくひこうきにのろうよ。」とあって、どうしてもそこが飛行機の中だとは納得できなかったそうです。

絵本などでは、たいいてい、飛行機の形があつて、窓の中で子供が手を振っていたりする絵があります。あるいはデフォルメされて飛行機そのものにまたがついていたりします。ところが子供にとっては何やら狭い場所の椅子に座っているだけにすぎません。そこが飛行機の内側で、今、自分が飛行機に乗っているということを想像することがまだできないわけです。自分のいる場所を客観的に認識するには、かなり、複雑な経験と知識のネットワークが必要です。

前置きが長くなりました。雲に乗りたい、雲を持ちたいという子供の言葉がありますが、実際に体験してもそれはピンときません。飛行機に乗っていると雨の日など雲の中

を抜けることがあります。この霧の中で幼児に「雲の中だよ」といつてもなかなか理解できないのです。上空に昇って眼下に雲海が広がっているのを見て、それは雲だというと、形から納得しますが、自分がその中を通ったことはとても不思議なようです。

雲の中を抜けるとき、窓から見てみると、確かに日常であう霧と何ら違いがありません。雲は微細な水滴や氷の粒が空中に浮いているものです。空中には水蒸気が酸素や窒素などの分子とともにありますが、その中で、温度に対して水蒸気が濃すぎる場所で雲ができます。水蒸気は気体のままいられなくなり、液体の水になって、光を反射し、眼に見えるようになります。とはいえ、とても小さな水滴なので、空気中に浮かんでいて、そのままでは地上に落ちてきません。

湯か白く見るところは液体に戻った水滴なので光を反射して白く見えます。

透明なところは水蒸気。とても熱いから注意!

我が家では猫を飼っています。もう、十歳を超えました。自宅の屋根の上くらいしか出歩かないのでまったくの室内猫で、自分や家族の呼び方、食べ物や猫の名や、こらっ、い

うちの猫

いこ、だめ、おいで、ありがとう、ごめんねなどの主要な単語は聞き分けている様子。トイレに行く時は呼びにきて、

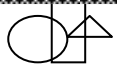
一緒にいないとしません。扉を開けて欲しい時も、夜眠くなつても呼びにきます。化粧を始めるのと外出を察して拗ね、帰ってすぐ抱き上げないとぐずります。本当に娘が2

歳の頃とよく似た行動ばかりです。この辺りでは猫人も大差ない気がします。ただし人はここから飛躍的に成長します。育むとは成長の早さを知って寄り添うことでしよう。

今月の話題より

ちょっと変わった絵本の楽しみ方

雲はたくさん絵本にそれこそ数え切れない形で登場します。おもしろいのは月の絵本に雲が活躍すること。「どこへいったの、お月さま」(評論社) 熊さんがお月様とかくれんぼ。月はどうしても見つかりません。どこに隠れたか…想像つきますね! 「おつきさまこんばんは」(福音館) 林明子さんのかわいらしい絵本。幼い子から楽しめます。「つきのぼうや」(同) 月が地上へ坊やお使いに出します。坊やは雲で一休みしたかったのですが、ちょっと柔らかすぎました。他のテーマでは雷様でも雲が大かつやく。「せんたくかあちゃん」(同) 豪快な洗濯母ちゃん。みんなを洗うついでに、雷雲からおへそを取りに落ちてきた雷様まで洗ってしまいます。「てんぐだい



こ」(偕成社) 『拾った太鼓をたたくと鼻が伸びる』と、いたづらをするげんごろうさん。有名な昔話には雲の上の世界が描かれています。「なつのいけ」(ひかりのくに) これは入道雲。夏の池にくもくした高いくもが映っています。「とんでいく」(福音館) 右開きで読んでいくと鷹の話が、左開きで読んでいくと雁の話が、展開される影絵。どちらの鳥も大きな雲を突き抜けます。「いるかのうみ」(同) 岸に打ち上げられてしまったイルカを助け仲良くなったけんた。水平線の上の空には様々な雲が描かれています。「とべちいさいプロペラき」(同) 飛行機と言えば空、空と言えば雲。どんな色の雲を抜けるのでしょうか。「ごろごろにゃーん」(同) こちらは妙な飛行機が妙なところを飛んでいく長新太ワールドです。「ゆうびんやさんのホネホネさん」(同) 「るるるさんのにわ」(ほるぶ) にも雲が!

クイズ解答 1) 2、4 とれも細かい水滴。他に、霧や冬に口から出る白い息も仲間。2)。ほんと。宇宙ステーションからの地球の写真には青い海を覆う白い雲が映っています。雲が太陽光をよく反射します。